

企画展

羊
馬
巡
礼

えど
じゅんれい

馬具から
羊毛へ

令和8年(2026)午(馬)

令和9年(2027)未(羊)

11.21(土) → 1.17(日)

開館時間 | 10時～17時(入館受付は16時30分まで)

休館日 | 月曜日休館(祝日等休日の場合は翌日) ※年末年始は12/28(月)～1/4(月)まで休館

入館料 | 一般600円 中学生以下無料

団体(20名様以上)、障がい者・療育手帳の提示100円引 友の会会員、学校メンバーズ加入団体、障がい者の介助者1名無料

主催 | 林原美術館

後援 | 岡山県郷土文化財団

山陽新聞社 RSK山陽放送

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART



厩図屏風(右隻部分) 江戸時代

うま年からひつじ年へ。

干支が巡る節目に、

「馬」と「羊」が語る日本文化の豊かな広がりを紐解きます。

古来、サムライにとって重要な素養とされた弓馬の道。岡山藩主池田家に伝わる名品の鞍や鐙、鞭、障泥などの馬具をはじめ、様々な馬を描いた「厩図屏風」や「平家物語絵巻」、さらに薩摩藩主島津家伝来の華麗な「千疋馬図揃金具」など、馬にまつわる美の世界をたどります。また、賀茂競馬や狂言で用いられた馬の面や装束「馬具図素襖」も展示し、日本に根付いた多彩な馬文化の魅力に迫ります。

一方、次の干支である「未(羊)」は、架空の龍や日本に生息していなかった虎と同様、明治時代に牧羊が本格化するまで、日本では実際に目にする機会の少ない動物でした。人々は実際に見たことのない羊をどのように思い描き、表現したのでしょうか。

中国で描かれた絵画、輸入された羊毛から生まれた羅紗製の陣羽織や火事装束、さらには羊皮紙に描かれた「アジア航海図」(国指定重要文化財)など、異国情緒あふれる資料の数々を通して、日本が受容した羊文化をご紹介します。そして和歌に詠まれた羊、合具に描かれた羊から中近世の日本人が思い描いた羊のイメージに迫ります。

馬の力強さと羊のあたたかさ。二つの干支が織りなす美と技の競演を通して、日本文化の奥深い魅力をご堪能ください。

EVENTS

各種イベント

特別講演会

「名実況の舞台裏 アナウンサーが語る日本の馬文化」

競馬中継の中で歴史に残る数々の名場面を実況してきた宇野和男氏をお招きし、その実況の裏話や馬と人の関係、競馬や馬具の歴史、現代競馬に残る伝統など、日本における馬文化についてお話をさせていただきます。

日時 | 令和8年(2026)12月6日(日) 13時30分~15時

講師 | 宇野和男 氏(元テレビせとうちアナウンサー ラジオNIKKEI競馬実況担当)

場所 | 林原美術館敷地内 ナガセヴィータ・ギャラリー

定員 | 30名(Webにて要予約) 参加費 | 600円(入館料別途)

学芸員によるギャラリートーク

会期中の毎週土曜日 14時~(予約不要、参加無料、入館料のみ)



黒羅紗包胴丸具足
九代岡山藩主池田茂政所用



江戸時代

千疋馬図揃金具・鐙・小
江戸時代



狂言面馬
江戸時代

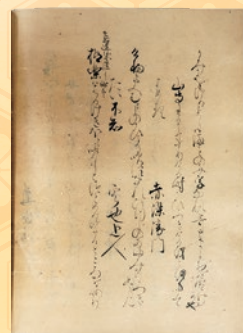


馬具 虎革鞍覆
江戸時代



羊

重要文化財 アジア航海図
安土桃山時代



千載和歌集「羊のあゆみ」赤染衛門
初代岡山藩主池田光政写 江戸時代



鬱金羅紗繪螺紋風紋
火事装束 江戸時代

次回予告

企画展「SUMI-美と知の結晶-」

令和9年(2027)1月30日(土)~3月28日(日)

「書く」「描く」「記す」「広がる」をテーマに、日本文化を支えてきた墨の多面的な魅力を紹介します。



林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15
TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089
<https://www.hayashibara-museumofart.jp/>

*車椅子対応の設備あります。

林原美術館Web



【臨時休館について】「暴風警報」「特別警報」が発令されている場合は、臨時休館とさせていただきます。詳細はWebに掲載しておりますのでご覧ください。

交通

- JR岡山駅から徒歩25分
- 路面電車[東山行]
県庁通り下車 徒歩7分
- 岡電バス[岡電高屋行]
県庁前下車 徒歩3分
- 宇野バス
[瀬戸駅前・四御神行]
県庁前下車 徒歩3分

